

[課題]

第3回課題 (1500字～2000字)

以下の2つの課題の中からいずれかを選んでレポートを作成して下さい。

- ① インド仏教, 中国仏教, 日本仏教の相違について述べなさい。

[本文]

仏教がインドで生まれ、中国を経由して日本にやってきたという意味で「三国伝来」という言葉がある。¹ 仏教と呼ばれているものは、それぞれの地域や学派、宗派によってかなり大きな違いがある。約2500年に及ぶ歩みの中で、仏教が歴史的・風土的に大きく変容して今日に至っているからである。²

一般にインド仏教は、ゴータマが悟りを開いてブッダとなり、教えを説き始めてから、その没後200年後のアショーカ王の庇護のもと大きく発展し、伝統派と改革派に二分されるまでの間の仏教をいう。この時代には、おおむね教団が統一を保ち、ブッダの教えが忠実に実行されていた。ゴータマの死後、500人ほどの弟子が集まって、後に「三蔵」と呼ばれるゴータマの教えをまとめた「経」や教団の規則である「律」、仏教思想が理論化された「論」が制定された。³

しかし、紀元前1世紀ころ、部派仏教と呼ばれ、仏教集団は分裂を重ね大衆部9部、上座部11部に袂を分かつこととなった。現実から離れた貴族的で隠遁な学問仏教となり、8世紀には、イスラム教がインドに進出し、インドの王たちはヒンドゥー教を保護してイスラム教に対抗したので、インドの仏教は密教の繁栄を最後にほとんど滅びてしまった。

大乘仏教は中央アジアから中国へと伝えられた。1世紀から3世紀初めの後漢の時代に、仏教は老子、荘子の道家の思想と結びついて、受け入れられていった。399年、法顕は中央アジアを経てインドに入り、サンスクリット語の經典を中国にもたらした。また、5世紀初めに長安へきた鳩摩羅什は、おもな大乘經典を訳し、3000余りといわれる中国層を教育した。南北朝時代の梁の武帝は仏教に帰依し、同郷を禁止して仏教を手厚く保護した。梁に続いて陳も、国家を鎮護する教えとして仏教を保護した。民衆の間でも仏教信仰が盛んになり、寺院が立ち並び、盂蘭盆会などの仏教行事も行われるようになった。⁴

インドではアショーカ王を除き、仏教は国家の保護を受けることなく、商人や商工業者が信者の大半を占めていた。一方、中国では、モンゴルによる中国征服まで、一貫して国家宗教の地位を占めることができた。そのため、仏教は国家統治のうえで重要な位置を占め、僧官がおかれて仏教教団を統制した。国家は仏教を保護するとともに、僧尼に王を拝することを命じた。国家のイデオロギー装置として仏教が位置していたのである。⁵

そのため、国民の行動や思考を規定する經典や、国家の威光を示すための寺院や仏像が数多く作られた。特に鳩摩羅什が訳した『法華経』や、則天武後に重用された法蔵が解釈した『華嚴経』が有名である。「法華経」は「諸経の王」とも呼ばれ、自利と利他に則った菩薩としてのあ

るべき生き方と、この世界を理想の浄土とすべき「靈山浄土」の教えが説かれている。『華嚴経』は、ゴータマが菩提樹の下で得た悟りの内容を示している経典といわれ、様々な菩薩たちの菩薩行が説かれており、あらゆるものは相互依存して存在しており、無限の関係性の中ではじめて成り立っているという縁起の思想に貫かれている。⁶

中国における仏教の位置付けをそのまま輸入し、発展したのが日本の仏教である。聖徳太子の手による官吏の規範となる「憲法十七条」にも、「華嚴経」や「法華経」の仏教思想が強く取り入れられている。飛鳥時代を通じて日本社会に定着した仏教は、奈良時代に国教としての地位を獲得していった。聖武天皇の「国分寺創立の詔」をはじめ、宇宙全体を象徴する仏である盧舎那仏が作られた。「法華経」や「華嚴経」が重んじられ、護国仏教としての側面が重んじられた。

平安時代に入ると、天台・真言二宗が日本の仏教の中心となり、末法思想の広がりとともに、貴族を中心とした個人救済の側面が強くなっていった。鎌倉時代に入ると、庶民の中にも戦乱や天変地異、疫病、飢饉による社会不安が広がり、仏教に救いを求めるようになった。南北朝時代から室町時代には、家と寺院をつなぐ檀家制度が発達し、どの宗派でも先祖の供養が重んじられた。江戸時代の行政を担う寺請制度の基盤となった制度であり、信仰の有無とは別に日本社会に根付いていった。⁷

現在の日本では「十三宗五十六派」とも呼ばれるほど多くの宗派が残っている。その背景には、インドや中国のように、仏教を反目するヒンドゥー教や儒教、道教、また、他民族による制圧がなかったため、時の政権の庇護を受けながら穏当に仏教が発展していったことがあると考えられる。また、日本国憲法で第20条で「信教の自由」が保障されたため、宗教対立などと無縁の現代となったことも、宗教の変容こそあれ、日本に仏教が根付いた要因となっている。昨今の統一教会の問題を考えると、「いかなる宗教団体も、国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない」という政教分離の原則に立ち返らなければならない。⁸

文字数：1995 字

<引用・参考文献>

-
- 1 金岡秀友監修『面白いほどよくわかる仏教のすべて』日本文芸社、2001、pp.109 参考
 - 2 ひろさちや『世界の宗教／宗教の世界』春秋社、2012、pp.232-233 参考
 - 3 玉城康四郎・木村清孝『ブッダの世界』日本放送協会、1992、pp.99.参考
 - 4 田中治郎『よくわかる仏教入門』佼成出版会、2004、pp.77-78 参考
 - 5 村上重良『世界の宗教』岩波書店、1980、pp.79-80 参考
 - 6 田中治郎前掲書、pp.164-176 参考
 - 7 村上前掲書、pp.91 参考
 - 8 菅沼晃・金岡秀友・田村晃祐「仏教」『世界の宗教 総解説』自由国民社、2001、pp.48 参考